

仕様書

スタートアップ支援部

1. 件名

スタートアップに対する経営管理・事業化支援人材の伴走支援モデルに係る調査事業

2. 目的

NEDO は、2022 年 11 月に政府方針として策定された「スタートアップ育成 5 か年計画」（以下「5 か年計画」という。）に掲げられた目標の実現に寄与するため、革新的な技術の研究開発に取り組む研究開発型スタートアップに対する支援を行っている。

研究開発型スタートアップは、革新的な技術の事業化・社会実装を目指す一方で、長期の研究開発期間や大規模な資金需要を伴うことが多く、資金繰り、予実管理、会計・経理、資本政策、組織体制、内部管理体制の整備等、経営管理面において様々な課題を抱えている。また、研究開発成果を事業化につなげるためには、経営判断や事業成長に資する管理情報の整備・活用と、外部専門人材による適切な助言・伴走支援が重要である。

本調査では、NEDO が支援する研究開発型スタートアップを対象に、経営管理・事業化に関する課題及び外部専門人材への支援ニーズを把握するとともに、「技術経営アドバイザーを活用した技術経営力の強化等に関する助言業務実施規程」に基づく技術経営アドバイザー（以下カタライザーという。）による伴走支援を試行的に実施する。これにより、支援内容、支援期間、支援頻度、カタライザーの役割、成果目標、情報管理方法等、今後の支援施策を検討・実施する際に必要となる機能・要件を整理する。併せて、スタートアップにおける管理会計的な情報の整備・活用状況を調査・分析し、NEDO によるモニタリングの在り方を検討する。これらの結果を踏まえ、今後の NEDO 事業において活用可能な伴走支援モデル及び実装方策を整理し、研究開発型スタートアップ支援の高度化に向けた課題及び改善方策を明らかにすることを目的とする。

3. 内容

(1) スタートアップにおける経営管理課題の抽出・伴走支援ニーズの調査

スタートアップ特有の伴走支援ニーズを把握するため、本項では基本情報の整理及びヒアリングによる経営課題の把握を行う。対象は、NEDO 事業実施中の事業者（DTSU、UPP 事業）のうち、調査対象とする事業者を NEDO と協議のうえ抽出する。

① 経営課題の抽出

財務・資金調達、経営管理、会計・税務・経費管理、内部管理体制、事業化・成長戦略等

② 伴走支援ニーズの調査

CXO 採用、内部管理体制、資本政策、管理会計、法務、規程整備、出口戦略等の相談ニーズ

③ 課題の解決状況及び未解決課題の把握

スタートアップがこれまでに直面した課題について、解決に至った課題、現在も継続している課題及び解決が困難な課題の抽出

(2) カタライザーによる伴走支援の試行的実施

前項を踏まえ調査した事業者の中から、伴走支援による効果が見込まれる事業者をNEDOと協議のうえを選定し、カタライザー派遣による伴走支援を行うこととする。伴走支援にあたっては、経営課題やニーズを踏まえ実施することとし、必要に応じて(1)の実施段階からカタライザーの同席も考慮すること。

① スタートアップ及びカタライザーの選定

伴走支援による効果が見込まれるスタートアップ、支援実施数をNEDOと協議のうえ決定する。また、カタライザーの候補者を選定し、候補者リストを作成し提案すること。リストの作成において、必要に応じてカタライザー本人へのヒアリングも行うこと。

本調査内において新たに委嘱することも検討し、カタライザーによる伴走支援の試行的実施にあたっては、支援先のスタートアップごとに支援計画を作成し、支援内容、支援期間、支援頻度、カタライザーの役割、成果目標、情報管理方法等を明確化すること。また、支援実施中は、支援内容、助言事項、進捗、課題、次回対応事項等を記録し、必要に応じてNEDOに報告すること。

② 謝金の支払い等

カタライザーから提出された実施報告書等をNEDOが確認した後、カタライザーへ定額支払いを実施する。(謝金額については技術経営アドバイザーを活用した技術経営力の強化等に関する助言業務実施規程(平成21年度規程第10号)を準用して支払うこと)

(3) スタートアップの課題及び伴走支援効果の分析

(1)、(2)の結果を踏まえ、スタートアップの抱える経営上の課題を明らかにするとともに、スタートアップの成長段階や経営課題に応じて、カタライザーがどのような支援を行うことが効果的かを分析する。

① スタートアップが支援を必要としている経営的な課題

② カタライザーによる伴走支援の効果及び改善可能な項目

③ カタライザーに求められる専門性、関与形態、支援期間、支援頻度等の整理

④ 伴走支援のマッチングの結果を整理し、効率的な伴走支援を行うために必要な要素を検討

(4) 調査・試行結果を踏まえた伴走支援モデルの整理・提案

(1)～(3)を踏まえ、スタートアップとカタライザーの効果的なマッチング方法、支援内容、関与形態等を伴走支援モデルとして整理する。また、本調査の結果として明らかになった伴走支援効果や、伴走支援ニーズをもとに、出口を見据えた伴走支援モデルを設計するとともに、今後NEDOが実施すべき伴走支援の在り方についての提言を行う。

4. 調査期間

NEDOが指定する日から2027年3月31日まで

5. 予算規模

34百万円以下

6. 報告書

提出期限： 事業終了後、調査報告書を所定の期日までに提出。

提出方法：NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

8. その他

本仕様書に定める事項については、随時 NEDO と調整の上実施してください。また、関連する NEDO 事業等との連携・活用等を視野に入れた上で、本仕様書に定めなき事項については、NEDO と実施者が協議の上で決定することとします。